

上正寺

本願寺派 神奈川県茅ヶ崎市

上正寺由緒

龍澤山龍徳院と号す。元禄15年(1702)僧圓春の記した『境内太子堂縁起』によるに、圓融院第4皇子尊勝法親王郡中寺尾郷(市内小出町)に一宇を建て、海圓院と号し、顯密兼学の道場とする。文治年中(1185～1189)当村に移る。

後、嘉禄年中(1225)住僧了智坊道圓(佐々木四郎高綱公)、国府津にある親鸞聖人に謁し、其の宗法に帰依し今の宗派に改宗。よって、了智坊を宗の開祖とする。その頃親鸞聖人寺号を「無上正覚寺」と名づけた。



上正寺

後、寺務を弟智圓に譲り、信州松本に正行寺を建て、仁治二年(1241)2月29日其の地にて寂す。年齢72才。後、本山覚如上人巡国の折り、当寺により、寺号を略して「上正寺」と呼び、今の称となったという。